

学位論文要旨

学位論文題目：横浜華僑社会の形成と発展 1859年から1920年代中頃まで

氏名 飯島（伊藤）泉美

本稿では、横浜が開港した1859年から、関東大震災復興期の1920年代中頃までの、横浜華僑社会の歴史的発展過程について論じた。その際、(1) 歴史的経緯、(2) 組織団体、(3) 経済活動の3つの観点から考察した。また、文献資料のみならず、画像資料、モノ資料、口述記録などを相互に組み合わせながら、実在した横浜華僑社会の歴史的営みを具体的に明らかにした。

【1 横浜華僑社会の歴史的経緯について】

1859年から1920年代中頃までの横浜華僑社会の歴史的経緯を考察した結果、横浜開港（1859年）、日清修好条規締結（1871年）、日清戦争勃発（1894年）、改正条約実施（1899年）、関東大震災（1923年）を契機として、次の5つの時期に区分できる。

第1期 横浜華僑社会の形成期 1859年（横浜開港）から1870年

開港以後、中国人は欧米商館の買弁などとして横浜に進出した。欧米人・中国人が増加すると、彼らの衣食住を支える仕事に従事する中国人がさらに増えていき、中華街形成の端緒がみられた。また中華街地区への集住の理由は、民族的棲み分けではなく、居留地造成過程の問題と業種別のゾーニングによる結果であった。

第2期 横浜華僑社会の成長期 1871年（日清修好条規締結）から1893年

日清修好条規締結による条約国人の地位獲得、領事館開設による公権力の保護を背景に、人口が急増し、中華街が形成されていった。また条約により不動産の所有が可能となり、関帝廟・中華会館・墓地・病院などが建てられ、社会組織の充実がはかられた。

第3期 横浜華僑社会の変動期 1894年（日清戦争）から1899年（外国人居留地撤廃）

戦争勃発による日清修好条規の破棄と改正条約実施・外国人居留地撤廃により、横浜華僑の法的・社会的・経済的地位が激変した。また梁啓超・孫文ら本国の亡命政治家の影響を受け、学校・商業会議所などの近代的組織の導入、中国人意識の醸成、日本人社会との協調志向などの変化が、横浜華僑に現れた。

第4期 横浜華僑社会の発展期 1900年から1923年8月（関東大震災以前）

1900年から人口が増加に転じ、最大6200人あまりとなり、華僑の経済活動も活発化した。社会の安定的発展を反映し、各種団体が設立され、また関帝廟などの祭事も盛んに行われた。

第5期 横浜華僑社会の再生期 壊滅から復興へ 1923年9月1日から1920年代中頃

関東大震災により震災前の人口5700人の30%近く1700人前後が死亡し、横浜華僑社会は壊滅の危機に瀕した。華僑の多くは広東、上海、神戸に避難した。復興は比較的早かったが、貿易商など大商人の帰浜が進まず、職業面では料理業、裁縫、ペンキ塗装など衣食住関係へと特化してい

く傾向がみられた。

なお、上記約 60 年間を通して、全体的にはホスト社会である近代日本・横浜との関係は良好であり、また 1860 年代の開港期から 30 年を経た 1890 年代中ごろから、横浜生まれの 2 世が増え、「華僑 Oversea Chinese」としての自己認識が形成されていった。

【2 横浜華僑社会の組織団体について】

横浜華僑社会には、対内的には自治・相互扶助、親睦、信仰保持など、対外的には各種交渉や意思表示のため、様々な団体が存在した。本稿では、中華会館、関帝廟、墓地、商業会議所、学校、同郷同業団体および中国人ナショナリズム台頭の影響を受けた 1920 年代中頃の新興団体について、その設立経緯や活動内容を検討した。また、それらを通して、横浜華僑社会の成長過程、特徴、それぞれの時代に直面した課題などが明らかにした。

【3 横浜華僑の経済活動について】

55 年間の *The Japan Directory* (在日外国人年鑑) の分析を中心に、1860 年代後半から 1920 年代前半における横浜華僑の経済活動の概要・特徴・意義について考察した。

(1)概要

当該時期の横浜華僑の経済活動は、従来認識されていた貿易業・商業・金融業のみならず、製造業、建築関係業など多種多様な職業にわたっていた。時期的な盛衰については、日清戦争直前の 1893 年頃から活発化し、その後徐々に発展して 1910 年頃にピークを迎え、以後、1920 年代まで同一水準を維持しており、震災前には成熟段階に達していたと言える。

(2)特徴

①第一次産業の従事者が不在、②商人・職人層が中心、③製造業（洋服仕立業、塗装業、印刷業、籐細工業、建設関係業等）の割合が高い、④欧米系商館の雇用人が多い、などの諸点が指摘される。

(3)意義・役割

①商業行為の仲介者—言語や商習慣を異にする欧米人と日本人との間に立ち、貿易活動を仲立ちした。
②貿易活動の推進者—中国人は貿易活動の要であり、国際貿易都市横浜にとって、不可欠な存在であった。
③欧米技術の移転者—洋裁・洋食・西洋建築・活版印刷など、欧米人の衣食住を支える職業を中国人が担ったことで、結果として、それらの新しい技術を日本に伝えた。

日本有数の観光地である横浜中華街は、その存在の認知度や関心の高さに反比例し、その歴史についてはほとんど明らかにされてこなかった。しかし、160 年近くにわたり存在し続ける外国系コミュニティである横浜華僑社会は、日本の中では特異である。その歴史的発展過程を明らかにすることは、移民社会との共存、また今後の日中関係を考える上でも肝要である。